



NO.428

R5年4月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

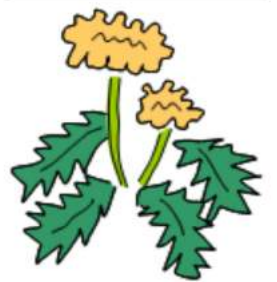
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「新たな気持ちで…」

施設長 木下昭二

令和5年度のスタートを、これまでの年度初めとはまたひと味違った気持ちで迎える事が出来ているのは、私だけでしょっか？

新型コロナウイルス感染症への対策だったとは言え、3年数ヶ月に亘って利用者さん・保護者・ご家族の皆様、スタッフさん等々、多くの皆さんに制限を強いる生活を送って頂いていましたが、政府の方針で打ち出されているように、今後の新型コロナウイルスに対する向き合い方が変わっていく事で、生活スタイルもコロナ禍前の状態に近づいていく事を思うと、「ワクワクする気持ち」でいっぱいです。スタッフの皆さんには、前々からコロナが落ち着いて、「利用者さんと何をしようか」と考えるのではなく、制限された生活を経験している今だからこそ考えられる「コロナ収束後の楽しみ方」を考

えておいて下さい、とお願いして来ました。そのアイデアをどのように表現し、具現化してもらえるのか、今から楽しみにしています。

法人としての大きな課題としては、施設の経年劣化、及び利用者さんの高齢化に対して、建物の実情が合わなくなってきたりしている事での建て替えに向けた検討が急務になっていきます。

この事については、数年前から話題に上げ、折を見て話し合っていました。このコロナ禍の中で先進的な建て替えを行われた施設さんの見学など、きちんとした具体的な活動が出来ていませんでした。年度初めに当たり、理事長・施設長を筆頭として、委員会を立ち上げ計画的に進めていきたいと思っています。その他、利用者さんの生活の質・幅を広げる為の社会生活に通ずるサポート、また権利擁護、意思決定支援に向けた更なる取り組み、スタッフの皆さんには対面式での職員研修の充実、ま

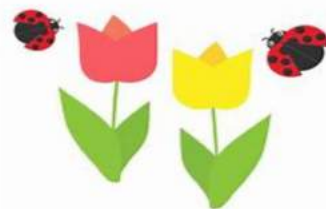
た一人ひとりの質の向上に繋がる資格取得に向けたサポート等々取り組むべき事が山積しています。

R5年度、まだまだ油断する事なく新型コロナウイルスをはじめ、色々なウィルスへの対策を取りつつ、恙なくスタートを切りたいと思います。





4月



「新しい課題」

新年度が始まり一歩も新しいスタートを切りました。新年度と聞くと、新しいことに挑戦する意欲、どうなるのかという不安等、様々な感情が浮かぶと思います。コロナウイルスによる世の中の情勢にも変化が見られていますので、情勢に沿った生活様式にも対応しなくてはなりません。時期的な感情に加え、周囲の環境の変化に一番敏感なのは、目の前にいる利用者の皆さんです。

コロナ禍での帰宅では、楽しみだった買い物に行けなくなった方もいれば、保護者の方の説明・説得で、自宅で過ごすことが定着した方もおられます。外食が好きだったAさんは、昨年末にあった個別外出では外食を拒否されました。私が提示した内容が悪かったのかも知れません。しかし、Aさん本人の中で、感染予防に努める生活様式が定着していたのではと考えると、何とも言葉にできません。コロナ明けの生活様式についても、また一つ新年度の課題となりそうです。

副主任 小城 崇



「チャレンジ&発見」

今年度は利用者さん25名、支援員10名の総勢35名で2班をスタートしました。新型コロナウイルスが流行し、様々な制限を取らざるを得ない「新しい生活様式」を実践してきたこの数年、5月から感染症法上の位置づけが2類から5類へと引き下げられ、少しずつ以前のような生活様式に戻っていくのではないかと考えています。2班の支援員の半数がコロナ禍に入職しており、以前の三気の里の様子を先輩から伝え聞いている状態。コロナ禍を経験したからこそ分かる、以前の生活の良さを、これから利用者さんと一緒に経験していくこととなります。失敗を恐れず、色々なことにチャレンジしていく中で、利用者さんの新たな一面を発見し、新たな可能性も一緒に引き出していけたらと考えています。更に今年度の2班は利用者さん、スタッフ共に褒め合い、笑い合える環境作りにも今まで以上に力を入れて取り組んでいきます。

副主任 松村 雄一

「熱い心と冷めた頭」

以前勤めていた職場で、上司から入社2年目の私に言われた言葉です。その時は相談業務をしており、利用者さんや家族、関係機関の話を傾聴する際、私の考えが上手く伝わらない時に感情的になり、早口になる、声が大きくなる、相手の話の途中で話し出すなど一人で熱くなっていました。私の考える最善の方向性に導きたいと想う気持ちが先走っていました。その想いは利用者さんや家族が望んでいるのか、それが本当に正しいのか、押し付けになってはいないか。うまくいかない、焦る、失敗する、業務が立て込んでいいる時などに私は熱くなっていました。「熱い心と冷めた頭」、、、と考えた時に、熱くなっている時は息の吸い過ぎが原因ではないかと思い、呼吸を整える（息を吐く）ことを意識するようになりました。意識をすることで気持ちが軽くなり、傾聴時の姿勢も変わりました。

今年は利用者さんの話を傾聴する姿勢を大切にしたいと考えています。利用者さんに寄り添い、話を傾聴することで、関係性を構築し、安心して三気の里で生活できるように、そして利用者さん、スタッフの居心地の良い3班を守っていきたいです。

副主任 友尻 陽也

「新しい気持ちで」

今年度は、新しい職員2名を迎えてのスタートでした。新年度は、「誰が担当かな?」「誰か新しい職員は入ってくるかな?」など不安もある中に期待も大きく、ワクワク、ドキドキしている利用者さんです。4班は、年齢層が高く、身体介助が必要な方がいます。仕事として日々の作業は大切ではありますが、身体機能の維持が必要になっており、散歩、体操など活動の継続を課題としています。ただ、歩くだけではなく天気の良い日は戸外に出て季節を感じ、同じ毎日が少しでも変化がある日課になるようにしています。最近では、外部にリハビリに行っている方もいて、施設では受けられない刺激を受け、それを楽しみに毎日頑張られている方もいます。私たち職員も、介護、リハビリの専門の方から活かせる部分は吸収しているところです。今年も怪我、病気をせず、職員の付き添いと見守りをもとに、食べること、話すこと、出掛けることが楽しく、大好きなみなさんが健康でいて欲しいと願います。

副主任 清田 彩織



「新年度が始まります」

新年度になり、利用者15名、スタッフは入れ替わりがあり6名でスタートしました。担当の変更もありましたが、安心して過ごして頂けるようスタッフ一丸となって支援をしていきます。昨年まではコロナウイルスの影響で、活動の制限など利用者さんにとって大きな変化もある中で、混乱されることもあったと思います。しかし、利用者さんは、変化に対応されて過ごされていました。3月にはマスク着用の自由化、5月にはコロナウイルスが5類になることで、世の中の変化も多くなる一年だと思います。三気の里も変化する一年だと思われまます。その変化で利用者さんが不安にならないように支援していききたいと思います。

今年度から5班のリーダーを務めさせて頂く中村圭助です。不慣れな点はありますが、先輩方から助言頂きながら、利用者さんと共に楽しい一年を過ごせるように努めさせて頂きます。

副主任 中村 圭助

療育雑記

「これからの10年20年を考える」

サービス管理責任者 今池一成

5年前に介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格を取得し、先日その資格更新研修（オンライン：3ヶ月/54時間）を受講しました。私たちが働く障がい分野には、今は直接関わりのない資格であり、研修日には休みを取らせていただいたことで

職場には、大変迷惑をかけたと思います。創設者の田中稔氏の“3つの約束”の1つに「勉強をする」という言葉があり、利用者さんの生活を

支えていく（議論・検討していく）中で、またこの仕事にプロとして携わらせて頂く中で、エビデンスを持つ

て仕事をするには、利用者さんを守り、ひいては私たち自身を守ることも繋がるのではないかと思いません。

今回のテーマは、「これからの10年20年を考える」。

三気の里に10代20代で入所された方々の多くが、開設37周年を迎える今、50代となり身体的な衰えと目に見えない部分で様々な疾患を発症す

る年代に差し掛かりました。当然これから年々年老いていく訳であり、「高齢者」と呼ばれる年齢は目前のところまで来ています。また、利用者さんのご両親は、後期高齢者（75歳以上）という言葉が耳をよぎる年齢になられてきました。私自身も早いもので入職20年経ち、やっと体のことについて少しは考える年齢になりました。

令和2年の国勢調査によると、熊本県内の高齢化率（65歳以上人口）は、約32%（全国約29%）であり、平均寿命は県、全国ともに男性は81歳以上、女性は87歳を超えています。

そして、団塊の世代が全員後期高齢者となる二〇二五年は、県内の高齢者人口はピークを迎え、医療の発展

や様々な福祉サービス増加、介護予防の観点などにより、これから更に平均寿命も伸び“人生百年時代”になると言われています。

自閉症の専門療育施設として開設された三気の里は、その専門的な療育を次世代職員に継承しながらも、目前に迫る高齢者ケアについても考え、行動に移していかなければならないという課題をこれから超えなければなりません。高齢者人口が増えるということは、当然障がいのある

高齢者の人口も増える訳であり、認知症高齢者の増加と共に「障がいの特性+認知症の症状」とどちらか判断が付きにくいことも生活の場面で起こり得ると思います。それは単にバリアフリーにすることや身体的な介護技術を習得することだけでなく、その人らしく”生活を送ることができるような支援を提供できるように準備をしていくことに始まると思います。

障害福祉サービスの利用者さんが介護保険サービスの利用対象となることで生じる「65歳の壁」。例えば、支援区分更新、受給者証更新、医師意見書の取得時など様々なタイミングで介護保険サービスへの移行を考

える事例が増えてくるかもしれません。しかし、先ほど記述したように人生百年時代と言われる中で、私たちの

周囲を見渡しても、高齢でも現役で働かれている方は多くいらっしゃいますし、高齢者だからのんびりゆっくり余生を過ごすといった考え方は時代錯誤となり、社会の中で役割を持つて生活する“その人らしく”といった視点がもっとも必要であると思います。更に言えば、スーパ

バイザー研修でお世話になっている片倉厚子先生が言われる“アテにされる（期待される）”こと。これが障がいがあるないに関わらず、人として最大の介護予防に繋がるのではないかと思います。

現在、就労部門を担当させて頂いている視点から、社会の変化や地域の状況を考えると、これから65歳以上の就労者は益々増加する傾向にあり、それは障がいがあってもなくても“その人らしく”その人が選択・決定していくといった視点が重要になります。

最後に、三気の会を支えるベースは、自閉スペクトラム症及び強度行動障がいの専門的療育です。この分野では、全国をリードしていきながら、これからの10年20年を考え、問題提起できる人材であり続けたいと思います。



BeTREE

「BeTREEから世界へ」

サービスマネジメント責任者 今池一成
熊本県内や全国二ユースにも取り上げられている台湾の大手半導体メーカー熊本工場がBeTREEから車で15分程のところへ只今建設中です。その恩恵を受け、様々な企業が近隣に進出し、半導体に関係する部品が次々に製造され、BeTREEではその一部の業務を請け負っています。

三気の里で生活しながら、日中はBeTREEで仕事をしているTさん（自閉症、区分6）は騒がしい環境が苦手で、他者からの介入をとても嫌がられる特性があります。しかし、BeTREEを利用して始めて4年近く、BeTREEでは突発的な行動はなく、日課の中でスタッフへ報告して次の行動に移ること（待つこと）ができるようになり、本人も毎日笑顔で通所されます。

もともと手先が器用でしたので、冒頭に書いた半導体関連部品の組み立てを担当してもらい、今ではその最終仕上げを任されています。就労支援の中で、療育的な支援を欠かさず、環境への配慮とストレングスを活かす仕事の提供を続けてきた結果が、ようやく実を結んだと実感しています。

熊本から世界へ。BeTREEから世

界へ。「可能性は無量大」であることを私たちは忘れないようにしていきたいと思えます。



アンパ

「アンパ」の役割

支援員 黒澤加代子

地域活動支援センターは、地域で暮らしやすい（身体、精神、知的）を抱えている方の日常生活や社会生活をサポートする支援機関です。創作活動、または生産活動の機会提供と地域社会との交流の促進を目的として、地域生活支援事業の一つに位置付けられています。

地域活動支援センター「アンパ」は、生産活動（パン、菓子等）を主とする中で、月1回の創作活動や年3回の子ども食堂（更生保護女性の会と共に）を実施していますが、生産活動が忙しいことに加え、ここ数年はコロナ感染拡大等もあり地域社会との交流の促進や利用者の方を増やすことが課題となっていました。

そのような中、昨年度新たにアンパを利用されるようになった方達のそれぞれに要望『作業所を利用していろいろリフレッシュしたい』『新生活を送れるようになる準備をしたい』『沿った内容の活動の提供、また活動の修正を行う中で、本人にとっても、アンパにとっても無理のない活動が考えられるようになりました。特に利用される方を支えてくださっている各相談事業所の相談員の方と連携できていることは大きな強みとなっています。』

今後現在利用されている方や新規利用してくださる方一人一人にとってアンパが充実した場所、また、地域社会と交流できる場所となれるようにしていきたいと思えます。

事務便り

「セルフアドボカシーってなに？それ食べられるの？」

事務長 寺田逸朗

（食べられません）あまり聞きなれない言葉ですが、「自分の意思や権利を自ら主張する」ことだそうです。知的障害の方は自己決定能力がないと思われていますが、丁寧に話を聞いてみると自分の好きなこと・嫌いなことについては本人が一番よく分かっているのだそうです。だったら、周りの誰かが代わりに決める

より、自分で決めてもらった方がいいですよ。

障害者権利条約で「私たちの事を私たち抜きで決めないで」というスローガンを覚えていらっしゃる方も多いと思います。

さて三気の里では毎月「話し合いの部屋」という取り組みで、利用者さんから話を聞く機会を設けています。食生活会議にも利用者さんに参加していただき、献立に意見を取り入れていきます。班の活動を決めるときも必ず利用者さんの意見を聞いています。

また不適応行動に陥った利用者さんに対して、三気のスタッフは「このまま不適応行動を続けるのか、切り替えて適切な行動をとるのか」を利用者さん自身が決めるよう支援しています。多くの場合適切な行動を選択されます。どうすべきなのかを本当によくわかっておられます。ただ、わかってもそれを常に続けられるかは別問題です私に例えると、飲み過ぎがいけないのは重々承知しているのに、ついつい飲み過ぎてしまい「ああもう酒やめよ」と決心したその日の夜にはもうビールに手が伸びています。

こんな私ですが、「のんき・こんき・げんき」で付き合ってくださいと幸いです。



4月スケジュール

2日(日) 世界自閉症啓発デー
 3日(月) 新任式・辞令交付式
 6日(木) 1班、4班給料外出
 7日(金) 芸術クラブ
 8日(土) スタッフ会議
 13日(木) 3班、5班給料外出
 14日(金) ゴールドクラブ・アンパの日
 18日(火) 田中Dr.ケースカンファレンス
 19日(水) 誕生会
 20日(木) 囑託医来診、2班給料外出

22日(土) スタッフ会議
 27日(木) 三気マーケット

毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売

BeTREE
 <営業時間>
 8:00~18:00

betree314



新任式

支援員 植野 希

今年も不安と期待で胸がいっぱいの中、無事に新任式を迎えることが出来ました。

新しいスタッフの方3名に加え、昨年度途中で入社されたスタッフの方の紹介を行い、利用者の皆さんは興味津々で話を聞かれています。また、毎年恒例ではありますが、各班に分かれて新しい担当発表や班移動があったスタッフの紹介を行うと、驚いた声や悲しんでいる声、喜んでる声など、様々な声が聞こえてきました。

三気の里では毎年綺麗な桜が咲き誇り、その満開の桜を見る度に1年という時の流れの早さを感じ、昨年はどうだったのか、今年はどうな1年にしたいのか考えます。私が入社した年から新型コロナウイルスが蔓延しており、感染対策の為、様々な行事、イベントが制限されてきました。日本では少しずつ向き合い方が

変わってきています。今年は感染症と上手に付き合っていきたいから、三気の里ならではの楽しみを見つけ、利用者の皆さんがよりよい生活を送れるようスタッフ一丸となって頑張っていきたいと思えます。



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】
 中嶋久枝様 竹下英毅様
 三気の里家族会様

【物品】

柴田博子様 金森保様
 魚谷秀文様 田中満子様
 宮本眞一様 櫻木勇夫様
 清田栄一様 渡邊正司様
 松村俊介様 中村秀隆様
 亀崎幸久様 東坂富士代様
 千田英之様 井手上昌子様
 森川琇介様 藤原芙佐子様
 小牧博則様

【後援会ありがとうございます】

早田澄江様 菅智子様
 江越和信様 橋本潤様
 伏貫直美様 清田緑様
 相良勝郎様 西村栄子様
 井本幸雄様 岡本史郎様
 坂井省英様 森川マサミ様
 田中基幹様 佐々木智征様
 財賀由子様 清藤由美子様
 東矢真明様 小屋野ミチ子様
 ヤマモト住建様 松田自動車様
 大津岩下薬局 岩下知生様
 刃のフレッシュ 今村義頼様
 (有)規工川工務店様
 (株)キンキ様